

内谷市長の

ゆるやか「ラム

「希望を持てるまちを目指して」

6月に開催された黒へこまつりとおやめまつりには、たくさんの皆様にお越しいただきありがとうございます。あやめまつりでは、昨年度「長井の未来を育む少年会議」において中学生から提案があった企画の実現や、北中学校の皆さんに看板を作成いただきなど、新たな取り組みも行われました。あやめまつりが、若い人のまちづくりへの参加のきっかけとなったことをうれしく思っております。

さて、今年4月に「人口戦略会議」の発表において、長井市が「消滅可能性自治体」とされました。新聞などの報道により不安に感じている市民の皆様もいることと思います。

私も、この発表は重く受け止めなければならぬと感じております。しかし一方で、そもそもなぜ長井市が停滞することになったかを考える必要があると思います。それは、20〜30年前に市の発展を支えてきた大手企業が撤退し、市の経済が厳しくなったこと、少子高齢化・人口減少が進んだことが挙げられます。

このような状況に対応するため、

2015年度以降、人口減少対策の総合戦略を策定し、地方創生の取り組みを進めてきました。中心市街地に都市機能や賑わいを取り戻すとともに、中心市街地以外でも地域の特性を生かしたまちづくりを進め、どこに住んでも面白いと感じるまち、若い人が希望を持てるようなまちを合わせてつくっています。10年後、20年後に、現在取り組んでいる成果が必ず出ると思っておりますので、発表内容に一喜一憂することなく、今後の取り組みに生かしていきたいと思っております。

市制70周年を記念し、8月と10月には、大きなイベントを開催予定です。賑わいや楽しみをつくりながら、誰にでも優しく尊重し合える寛容なまちづくりを引き続き行ってまいりますので、皆様のお力添えをお願いいたします。



▲少年会議で提案があった「星コン」